

だいきく通信 第三十八号 「夏の号」

いあつちつ

今年六月から七月にかけての東京は「梅雨寒」「梅雨冷え」といった言葉のふさわしい陽気が続きました。一方、九州地方は記録的な大雨に見舞われたとのこと。これから夏本番となりますが、今年も昨年同様厳しい暑さがやってくるのでしょうか。近年は今までにない厳しい自然の力に驚かされるが多くなっているように思います。十分に備えをして暮らしたいと思います。みなさまどうぞくれぐれも体調にお気をつけてお過ごしください。

社報「だいきく通信」第三十八号をお届けします。

今回の内容は、当神社主催の催し物についてのご案内、神社に関する豆知識をお伝えする「お宮あれこれ」、オリジナル・キヤラクターたちが活躍する連載まんがなどです。お楽しみいただけます。

大國神社 宮司 大島資生



大國神社の今

○第八回だいきく落語会を開催しました。

去る四月二十七日（土）、第八回「だいきく落語会」を開催しました。今回も古今亭菊乃丞師匠をお迎えしての独演会は「片棒」「妾馬」の二席。江戸情緒たっぷりの巧みな話芸を堪能いたしました。菊之丞師匠、ご来場くださいました皆様、ありがとうございました。



○第五回だいきくクラシックスを開催します。

来る九月二十九日に秋恒例の催しとなりました「だいきくクラシックス」を開催いたします。昨年に引き続き、東京都交響楽団第二ヴァイオリン副首席奏者の小林久美さんと、同じく東京都交響楽団ヴィオラ奏者小林明子さんのお二人によるデュオ・リサイタルです。息の合ったアンサンブルに期待が高まり

ます。お席に限りがありますので、ご参加希望のかたはお早めにご予約ください。

第五回だいきくクラシックス

「小林久美・小林明子 デュオ・リサイタル」

日時 九月二十九日（日）午後三時より

場所 大國神社・拝殿



○おみくじ機修理・手水舎自動水栓交換を行いました

社殿前に設置しておりますおみくじ機が動作不良を起こしたため、四月二十日に専門業者に修理を依頼、五月一日に無事復旧いたしました。これに合わせ、雨天時のご不便の軽減をはかるため、今までよりも少しだけ内側に設置しました。



また、六月下旬には手水舎の自動水栓が故障したため、こちらも新しいものの取り寄せを依頼し、七月五日に交換が完了しました。



いずれもお使いいただけない期間が生じてしまい、ご不便をおかけいたしました。申し訳ありませんでした。

平成二十三年暮れの社殿新築・境内整備以来八年が経過し、諸設備に手入れが必要になってきているようです。ご参拝のみなさまに少しでも気持ちよくお過ごしいただけるよう、今後も努力してまいりたいと存じます。

お宮あれこれ「玉（たま）」のこと

今回は「玉」という言葉についてお話ししましょう。

「玉」はもともと、装飾品になるような、美しく、丸くて小さい石のことをいいました。そこから転じて「大切なもの」をあらわす使い方もあります。「玉のような赤ちゃん」という言い方がそれです。

神社とかかわりのある言葉にも「玉」が登場します。「玉垣」「玉串」などです。ここには「尊い」「高貴な」などの意

味合いが込められており、本来の「美しい」「大切だ」といった意味が生きています。

ちなみに「玉櫛笥（たまくしげ）」「玉簾（たますだれ）」などの「玉」は、「美しい」、あるいは「美しいものをちりばめた」という意味合いです。また、「玉砂利」「玉ねぎ」「十円玉」などの「玉」は本来の意味のうち「丸い」という意味合いで使われているものです。

このように「玉」は古い言葉ですが、本来の意味合いが現代の言葉の中にもしっかりと息づいていることがわかります。

さて、古代の日本語で「たま」は「玉」のことをあらわすと同時に「魂」つまり「たましい」のこともあらわしていました。

奈良時代の日本語には、人知を超えた存在をあらわす表現として次の三つがありました。一つは、自然の激しい力をあらわす「チ」で、「いかづち」「をろち」「いのち」などの言葉に見られます。二つ目が「タマ」で、精霊や人の体を離れた霊のことをいいました。そして三つ目が「カミ」で、この中ではいちばん新しいことばです。このうち二つ目の「タマ」という言葉が「玉」と関係があったとされます。「タマ」は精霊のことを言いますが、その精霊は自然の中のさまざまなものに宿っていると考えられていました。そして、古代の人々は精霊が球のような形をしていると捉えており、それで「玉」に見立てたのかもしれない。

自然は人間に豊かな実りを与えてくれる一方、時に嵐や地震、火山の噴火など大きな災害ももたらします。古代人はいずれも精霊のはたらきととらえ、前者を「ニギミタマ（和御魂）」、後者を「アラミタマ（荒御魂）」と呼びました。この

二つは祝詞でもよく使われる表現です。これらは同じ一つの「タマ」が別のあらわれかたをしたものと捉えられていたようです。古代日本人の自然に対する考え方がよくあらわれています。

最初の「玉」に戻りますと、今回の連載まんがは「勾玉」の話です。「玉」、つまり装飾品の一つである「勾玉」は神社の社殿の中でも用いられている場合があります（当神社の社殿にもあります）。ご参拝の折、さがしてみたいかがでしょうか。

祭礼・祈祷などの案内

○お祓いのお申し込み・お問い合わせなどは次の電話番号もしくはメールにてお願いいたします。不在の場合は、恐れ入りますが、留守番電話のメッセージのあとで、お名前・電話番号・ご用件をお話してください。のちほどこちらからご連絡いたします。

○諸祈祷受付 商売繁盛祈願、心願成就祈願、厄除け、お宮参りなど、随時祈祷を行っております。祈祷日時については、お電話にてご相談ください。

〈お問い合わせ・お申し込み〉

電話

〇三―三九一八―七九三〇

携帯

〇八〇―一九八七―八七二六

eメール

daiokujinja@gmail.com



(連載まんが)

大吉うさぎ

～まがたまの話～

くま こまち 作



○次回甲子祭

令和元年九月二十四日（火） 午前五時～十時

（ご祈禱日） 九月二十八日（土） 午前十時～正午

※受付時間を変更させていただきます。どうぞご了承ください。

○開運千人講祈禱祭 毎月一日 午前六時～正午まで



次号発行予定

「だいこく通信第三十八号」、いかがでしたか。次号「秋の号」は、九月二十四日の甲子祭に発行予定です。

「だいこく通信」第三十八号 令和元年七月二十六日発行

編集・発行 大國神社社務所

〒一七〇—〇〇〇三 東京都豊島区駒込三—二—十一

<http://www.daikokujinja.org>